

はじめに



本県においては、産業活動に伴う大規模な公害はほぼ改善されてきていますが、光化学オキシダント、手賀沼・印旛沼・東京湾の水質汚濁、里山等の身近な自然環境の荒廃、廃棄物の不法投棄など、依然として多くの地域において、様々な環境問題に直面しています。

また今日、地球規模の気候変動への対応が世界的な課題となっており、さらに、大量かつ多様な廃棄物の発生や天然資源の枯渇といった問題を生み出す大量生産・大量消費型の社会から、「循環型社会」へと転換していくことが重要な課題となっています。

県では、これらの課題を乗り越えて、本県の豊かな環境を次世代の子どもたち、孫たちに引き継いでいくため、平成20年に策定した環境政策のマスタープラン「千葉県環境基本計画」とともに、平成22年3月には、千葉県総合計画「輝け！ちば元気プラン」を策定し、「みんなで守り育てる環境づくり」を重点施策として掲げるなど、環境問題に対する施策を積極的に展開しています。

昨年3月に発生した東日本大震災は、環境分野においても大きな影響をもたらしました。

県では、災害廃棄物の適正処理を進めるとともに、放射能監視体制を充実・強化して、継続的な測定・公表を行い、安心安全の確保に努めています。また、電力供給力不足を受け、環境負荷の低減のみならずエネルギー分散確保の観点からも、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進を進めているところです。

身近な地域での環境問題から地球環境問題に至るまで、その解決のためには行政だけでなく、何よりも県民の皆様とともにチームスピリットの精神を発揮して行動していくことが大切です。

平成23年版環境白書は、本県の環境の現状や環境保全に関する施策の実施状況について平成22年度を中心に取りまとめたものです。本書を通じて県民の皆様が環境問題への理解や関心を深め、環境保全の取組を進める上での一助としていただければ幸いです。

平成24年1月

千葉県知事 森田健作